

令和2年度 大阪府立大正白稜高等学校 第3回学校運営協議会(書面会議) 概要

書面発送	令和3年2月1日 (月)			
意見集約	令和3年2月19日 (金)			
関係者	◆協議会会長	辻野 けんま	学識経験者	(大阪市立大学 准教授)
	◆協議会委員	加藤 知美	保護者	(PTA実行委員)
		角元 雄一	地域の住民	(大正ものづくりフェスタ実行委員)
		堤 宏	地域の住民	(大正東中学校校長)
		辻井 勝	学校運営に資する活動	(同窓会会長)
		吉田 優子	学校運営に資する活動	(キャリアコンサルタント)
◇教職員		藤原 隆志	校長	
		山本 益久	事務局長 (教頭)	
		中村 壽男	事務局員 (教頭)	
		松岡美弥子	事務局員 (首席)	
		中西 真一	事務局員 (首席)	

1 確認依頼事項

- ・令和2年度学校経営計画 評価
- ・令和3年度 学校経営計画 (案)

提示資料

- ・学校教育自己診断アンケート結果
- ・授業アンケート結果

2 書面開催による令和3年度学校経営計画 (案) の承認依頼

令和3年2月19日 (金) まで

3 書面会議の詳細

【令和2年度学校経営計画 評価について】

- ・学校教育自己診断の結果と分析
- ・第1回および第2回学校運営協議会からの意見確認

【令和3年度 学校経営計画 (案) の確認】

【参考資料】

- ・学校教育自己診断結果
- ・授業アンケート結果

【承認依頼事項】

- ・令和3年度 学校経営計画 (案) の承認
- ・承認依頼書記入

4 意見集約 (令和3年2月19日締切)

- ・コロナ禍のなか、学校運営を滞りなく進めて頂きありがとうございました。
- ・何件かあったコロナ陽性が出た際のスムーズな連絡 (マチコミなど) が良かったです。親も子供も安心して過ごせました。
- ・学校ホームページの進路実績がH31年度までで止まっていて古い情報の印象を受けます。また、可能なら・受験方法・学科などの詳細があれば中学生やその保護者が高校を選ぶ際の安心材料につながります。また、卒業生インタビューも早く1期生に変えるほうが良いと思います。
- ・新型コロナウイルス感染が続く中、教職員の皆様のご尽力に感謝致します。ありがとうございます。学校経営計画において、白稜シップをより強力に推し進めて頂き、大正白稜高校の特色と実績を広くアピール願いたいと思います。

・令和2年度の学校評価及び令和3年度の学校経営計画（案）から教職員の皆様のご尽力や生徒さんたちの努力を確認することができました。コロナ禍での異例の対応に追われる年度と拝察しますが、皆様のご奮闘に深く感謝申し上げます。今年度の学校評価及び別添資料（学校教育自己診断比較）が、次年度の学校経営計画にどう生かされているのか、やや不明なところがありました。そこで恐縮ながら「付帯意見」を別添させていただいての「承認」とさせていただきます。

～付帯意見～

令和2年度の学校評価及び令和3年度の学校経営計画（案）から、教職員の皆様のご尽力や生徒さんたちの努力を確認することができました。多くの点で目標水準が達成されていることに敬意を表します。目標達成されていない項目も「地域との交流機会」や「保護者来校」の回数等、コロナ禍の影響からやむをえないと思われまます。当面はコロナ対応の状況が続くかと思っておりますので、次年度の経営計画上も数値の設定は難しいのではないのでしょうか。無理な数値設定が教職員の皆様の多忙化させるのではと気になりました。別添資料「学校教育自己診断」について、今年度コロナ禍での異例の対応にも関わらず、生徒の皆さん・保護者さんともに多くの項目で肯定回答が多くなっており、教職員の皆様のご尽力の賜物と考えます。ご奮闘に心より感謝申し上げます。また、課題として何が明らかになったか等、協議会委員の立場で資料から読み取れることは限られますので、データのみでなく補足資料などでお示しいただけると非常に助かります。対面会議ですと直接意見交換できるのですが、書面審議のためデータの解釈が難しいところが少なくありません。例えば、「Q9相談したい先生がいる」は否定回答が上回っていますが、これは先生方にどのくらい期待していいことなのか等。評価に振り回されず、また万能を求めすぎず、あくまで現実的な課題改善に資する無理のない学校経営計画であってほしいと願っていますので、平時の目標はそこそこに、コロナ禍での柔軟な対応をお願いします。

・今年度はコロナ禍の中、先生方も様々な対応に追われ大変だったことと思えます。中・高校生のコロナによる鬱症状が増えているとのデータもありますので、スクールカウンセラーの利用を次年度、必要な生徒さんが使いやすい頻度利用できる予算・時間確保ができれば望ましいと思えます。

・進路については、進学実績として具体的な大学名を挙げて取り組もうとされていることは素晴らしいと思えます。一方で、偏差値の高い大学に入学をすることを進路指導の中心におくことは危険でもあります。同時に「目的を持った将来像を描いた学部・学科選びができているか」「自分の進路選択に納得感（自己決定感）をもっているか」といった親・先生に言われたからではなく生徒本人の自己決定ができているか、それが学習意欲にもつながっているかを数値で把握していくことも必要と感じます。

5 令和3年度 学校経営計画（案）の承認について

6名の委員全員が承認